朝の礼拝・校長講話4

# 「究極のエンジョイ」

2025・7・18　校長　重枝一郎

私は，昔，自分のサッカー部の生徒に対して，「守備はやらなくてはならないこと。組織的に同時性をもって動かなければならない。言われたことをきちんとこなすことを求められる。一方攻撃は，やりたいことをやってみてほしい。自由に想像力をもってチャレンジしてほしい。この“やらなければならないこと”と“やりたいこと”の両方があるから，サッカーを通して成長できる。また，“やりたいこと”がなければ，魅力的な選手にはならない。サッカー以外でも魅力的な人を目指してほしい」と話していました。

これは，私たち大人の仕事の流儀にもなると思っています。これからも「言われたことをきちんとこなすだけじゃ面白くない」という成長型のマインドセットを生徒・教師共に求めていきたいと思っています。

さて，**「究極のエンジョイ」**って何だろう。人それぞれという前提はありますが，元サッカー日本代表監督の岡田武史氏は**「自分の責任でリスクを冒すこと」**と言っています。言われたことをこなすだけだと非難はされないのかもしれません。ただ，楽しいかと言われれば，私は，そうは思いません。以前，校長講話で「人の話を聴くことで，人生の８０％は成功する」という話をしました。これは，みなさんに「聴くスキル」を獲得させたいという思いでした。でも，人の話を聴くというのは，人の言いなりになることではありません。聴いた後，自分はどう行動するのかが重要になります。そして，その行動に「楽しさ」を見出してほしいと思っています。

人は，自分で判断し，行動し，成功した時は，こんなに楽しいことはないと思うからです。

2015 年ラグビーワールドカップ南アフリカ戦を知っていますか。世界中に「ブライトンの奇跡」と報じられた，スポーツ界では歴史的な奇跡の試合と言われているゲームです。2019 年には「ブライトン・ミラクル」というタイトルで映画化もされています。そのゲームは，終了間際まで３点差で日本が負けていました。それだけでもよく頑張ったと言われてもいい強豪の南アフリカチームに対し，終了間際，日本は敵陣深くでペナルティを獲得しました。その時，エディー・ジョーンズ監督の指示は，キックで３点取って同点で終わりたいというものでした。しかし，キャプテンのリーチ・マイケルは，スクラムを選択しトライで逆転を狙いにいきました。そして，ボールをつなぎ，奇跡の逆転のトライを決め，３４対３２で歴史的勝利を挙げたのでした。監督は，指示に従わなかった時は怒ったそうですが，自分たちで選択して結果を出した勇敢な選手たちを称賛したそうです。選手たちは最高の喜びがあったそうです。

**「究極のエンジョイ」とは，「自分の責任でリスクを冒すこと」。**

プロの選手の場合，怒られたり，責任をとらされたりすることもあります。だからリスクと言えるのです。でも，この**「究極のエンジョイ」**をする人が，これまでの当たり前を変えているのも確かです。みなさんは，学校という失敗できる場所にいます。だから，**「究極のエンジョイ」的な経験**をしてほしいと思います。少し不安になりながらも，やってみるという経験です。この経験が先の人生を楽しむ秘訣になるかもしれません。

１学期はチャレンジできましたか？　応援され力はつきましたか？　チャーミングなファーストペンギンを目指せ。